

令和元年 7月4日

松山河川国道事務所工務第一課

「大学生が中学生の河川環境調査をサポート」

～重信川の生き物をつかまえて水のきれいさを判定！～

松山市立椿中学校との生徒・児童がおこなう環境学習「生き物による重信川の水質調査」に、地元の大学生のみなさんが協力します。

中学生が川の宝物「水生生物」をザルや網をつかってさがします。身近な川にも魅力的な生き物はあるのか？重信川の水はきれいなのか？河川生物を学ぶ大学生のみなさんの生き物さがしの腕前は？当日は参加者全員が楽しみながら環境調査に取り組みます。

◆令和 元年 7月11日（木） 松山市立椿中学校1年生154名

予備日：7月12日（金）

□時間・場所

8：30～11：30 伊予郡松前町中川原地先【中川原橋左岸】（別紙1参照）

■今回も愛媛大学環境建設工学科の大学院生・学部生が環境教育に参画します。

※降雨や増水の場合には延期・中止・調査場所を変更する場合がありますので、事前にお問い合わせください。

◇水生生物による水質の簡易調査とは

水生生物は水質汚濁の影響を強く受けることから、それらの生息状況を指標として河川水質を判定することができます。このような取り組みは、子どもや一般の人にもわかりやすく、調査に専門的な機材を要しないことから、誰でも簡単に参加できるという利点があります。さらに、調査を通じて身近な自然に接することにより、環境問題への関心を高める良い機会にもなります。環境省と国土交通省が昭和59年度から行っている全国水生生物調査にもとづき、重信川でも多くの小・中学生の協力により毎年実施し、河川環境の保全と川づくりへの住民参加の促進に役立てています。

詳しくはこちらのHPをご覧ください。

<http://www.skr.mlit.go.jp/matsuyam/river/tyousa.html>

※本施策は、四国圏広域地方計画の広域プロジェクト【No.1 南海トラフ地震を始めとする大規模自然災害等への「支国」防災力向上プロジェクト】に該当します。

問い合わせ先：四国地方整備局 松山河川国道事務所 工務第一課

副所長（河川）：笠井 ^{かさい} 博之 ^{ひろゆき}（内線：204）

◎ 工務第一課長：山崎 ^{やまざき} 元司 ^{もとし}（内線：311）

TEL 089-972-0206

FAX 089-972-8105

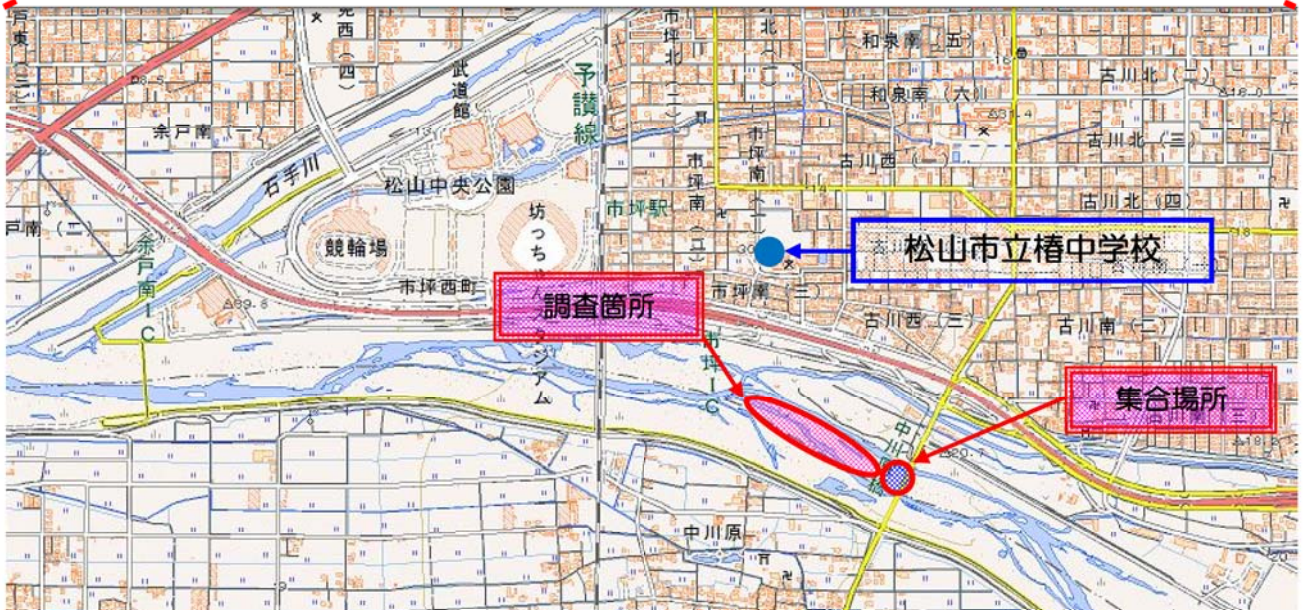
◎：主な問い合わせ先

◆令和 元年 7月11日(木) 松山市立 椿中学校

□伊予郡松前町中川原地先【中川原橋右岸】



【拡大図】



※この地図は国土地理院図（電子国土Web）に加筆したものである。

昨年の実施状況

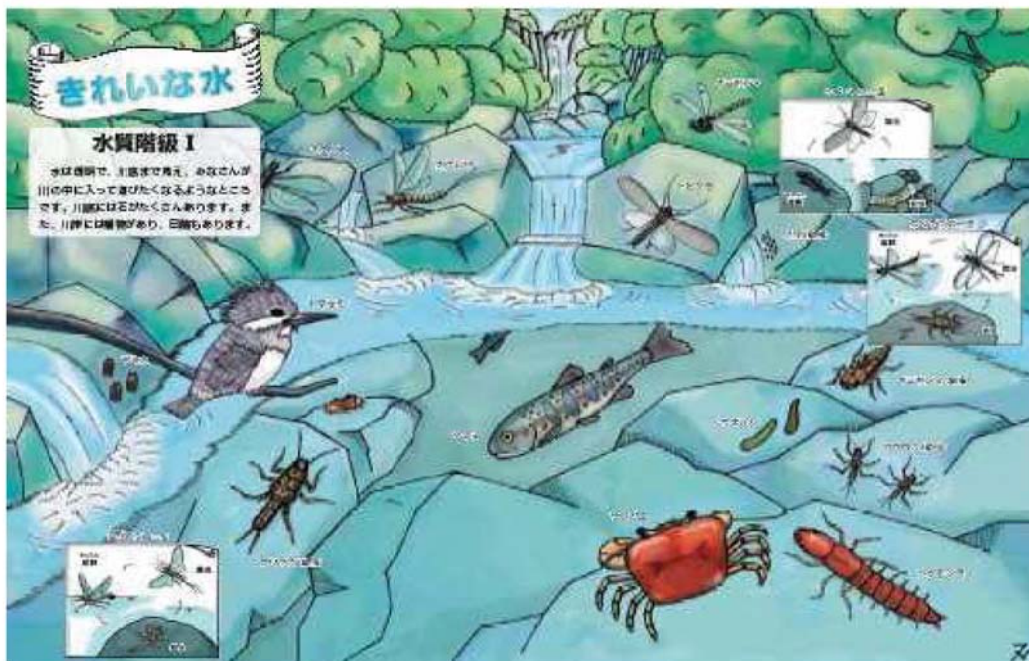


水生生物調査とは？

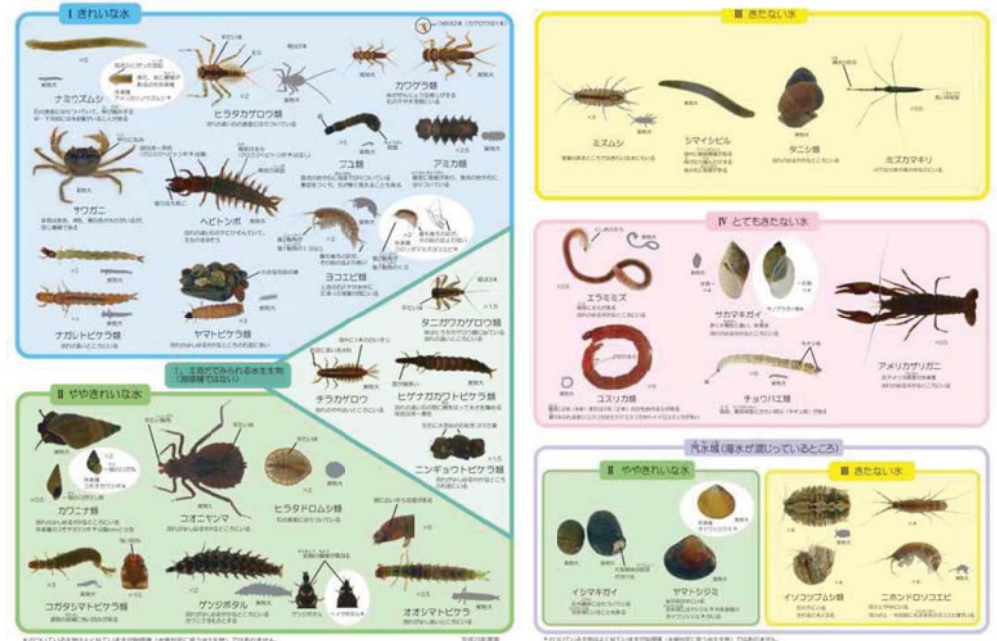
川の中には様々な生きものが住んでいます。特に川底に住んでいる生きものは、過去から調査時点までの長い時間の水質の状況を反映したものであり、どのような生きものが住んでいるかを調べることで、その地点の水質の程度を知ることができます。この調査は、適切な指導のもと、小学生、中学生、高校生、一般の人々のだれもが簡単にできるようになっています。

調査方法

本調査では、河川に生息する水生生物のうち、①全国各地に広く分布し、②分類が容易で、③水質に係る指標性が高い、29種を指標生物としています。
河川で水生生物を採集し指標生物の同定・分類を行い、地点毎に、Ⅰ(きれいな水)、Ⅱ(ややきれいな水)、Ⅲ(きたない水)、Ⅳ(とてもきたない水)の4階級で水質の状況を判定しています。



水質階級と指標生物



きれいな水 (Ⅰ) の指標生物		ややきれいな水 (Ⅱ) の指標生物	
ナミウズムシ	サワガニ	カワニナ類	コオニヤンマ
ヒラタカゲロウ類	カワゲラ類	コガタシマトビケラ類	オオシマトビケラ
ヘビトンボ	ナガレトビケラ類	ヒラタドロマシ類	ゲンジボタル
ヤマトビケラ類	ブユ類	○ ヤマトシジミ	○ イシマキガイ
アミカ類	ヨコエビ類		
きたない水 (Ⅲ) の指標生物		とてもきたない水 (Ⅳ) の指標生物	
タニシ類	シマイシビル	サカマキガイ	エラミミズ
ミズムシ	ミズカマキリ	アメリカザリガニ	ユスリカ類
○ ニホンドロソコエビ	○ イソコツブムシ類	チョウバエ類	
Ⅰ, Ⅱ両方で見られる水生生物 (指標生物ではない)			
ヒゲナガカワトビケラ類	ニンギョウトビケラ類		
タニガワカゲロウ類	チラカゲロウ		

注) ○は海水の少し混ざっている汽水域の生物